



八雲町のまちづくりを熱弁！ 八雲町まちづくりシンポジウムが 開催されました

7月19日、シルバープラザにて「八雲町まちづくりシンポジウム」が開催され、町内外から約480名が来場しました。このシンポジウムは、道立公園噴火湾パノラマパークに隣接する「ハーベスター八雲」を30年来運営されているジェーシー・コムサ代表取締役CEOで、八雲町観光大使である大河原 毅氏の声かけにより、3年前から域学連携として交流していただいている上智学院と連携協定を結び、持続可能なまちづくりの取り組みの一環として開催されました。当日は、基調講演を行う予定だった齋藤 健農林水産大臣におかれては、西日本豪雨のため急きょ欠席となり、来場者に向けたビデオメッセージを送付いただきました。基調講演では、上智大学長 曄道 佳明氏による「地球環境と持続可能な社会」、住友林業株式会社 代表取締役社長 市川 晃氏による「日本国内の山林の状況と住友林業の取り組み」が講演され、来場者は熱心に耳を傾けていました。パネルディスカッションでは、「持続可能なまちづくりに向けて」と題し、齋藤農林水産大臣の代理として急きょ駆けつけていただいた農林水産省 西 経子課長ら4名による討論を行いました。曄道氏は八雲町と上智大交流での体験と町の産業資源を評価し、市川社長は自治体が中心となって持ち主不明の森林の管理の解決策を見つけてほしいと訴えました。



みんなで食べるとおいしいね！ 熊石食生活改善協議会 くまいし子ども食堂

6月20日、ふれあい交流センターくまいし館で「くまいし子ども食堂」(主催 熊石食生活改善協議会)が開かれ、集まった親子ら18名が手作りの料理に舌鼓を打ちながら和やかに時間を過ごしました。食育と交流の場づくりを目指して、昨年から取り組まれており、放課後に集まった児童らは、同協議会のメンバーの指導の下、ゆでたじゃがいもを練りこんだ団子汁と「おにぎらず」のほか、黒糖蒸しパンを調理しました。参加した児童たちは出来上がった「おにぎらず」をほおぼりながら「みんなで食べるとおいしいね」と楽しそうに話していました。



認知症の人と家族を地域で支える！ 熊石介護者と共に歩む会 15周年記念講演会

「熊石介護者と共に歩む会」(代表平井 稲子)の設立15周年を記念し、NPO法人北海道若年認知症の人と家族の会(札幌市)の木村邦弘氏による講演会が、7月9日にふれあい交流センターくまいし館で行われ、町民ら92名が参加しました。

アルツハイマー型若年認知症を発症した妻を17年間にわたる介護の末、看取った経験を語るとともに、認知症の人と接するときには「驚かせないこと」「自尊心を傷つけないこと」が大事であると訴えました。講演を聞いた参加者は、「介護は一人で抱え込むのではなく、周りの人の理解や手助けが大事なことだと実感しました」と話していました。

